復原工事を支える伝統技術

東楼復原工事は、様々な伝統技術・多くの職人 によって支えられています。現場にて、その技法や 職人の魂をリアルに感じてください。

○宮大工

宮大工とは社寺などの日本の伝統的な木造建築を取り扱う大工を指します。大まかな削りは機械加工ですが、最後は宮大工達の手によって一本一本、木材の表面が仕上げられています。





○左官

左官とは建物の壁や床等を、鏝(こて)を駆使して作りあげる仕事のことを意味します。 東楼では、左官職人によって材料作りから行われ、土壁がつくられています。





○塗装

塗装とは建物の保護や美観などを目的に屋根や壁、床などの材料に塗料を塗る(皮膜を構成)ことです。東楼では、材料となる塗料を現場で一から調合、管理もしています。

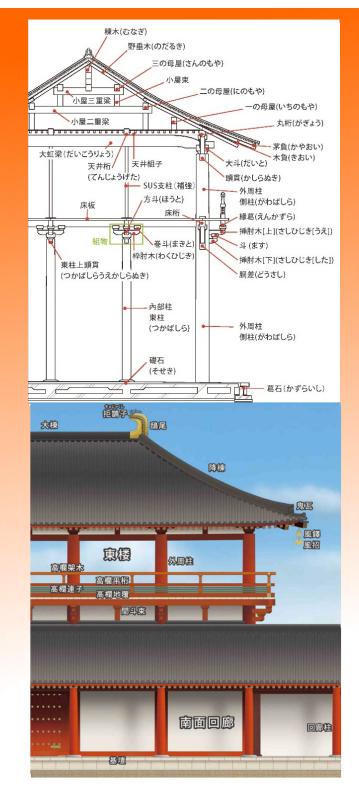




詳しい伝統技術の紹介や 復原工事に関わる職人達の 思いはこちらから→



(近畿地方整備局営繕部HP)



東楼復原工事平城宮跡





工事名 :平城宮跡歷史公園第一次大極殿院東楼復原整備工事 工事期間:令和4年3月~令和7年度 建築面積:東楼361.031 m²、築地回廊184.687 m² 最高高さ: 東楼18.659m (地盤面より鴟尾まで)、築地回廊7.449m 主要構造:東楼

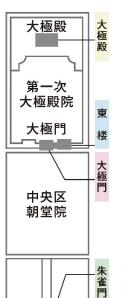
木造2階建/桁行5間、梁行3間、外周掘立柱、内部礎石建ち、寄棟造り、本瓦葺、組物平三斗 発注者:国土交通省近畿地方整備局

設計•施工監理:国土交通省近畿地方整備局•京都営繕事務所 公益財団法人文化財建造物保存技術協会

東楼

施工:株式会社 竹中工務店 大阪本店





東楼の柱

東楼は昭和47年(1972年)の平 城第77次調査で検出されました。桁 行5間(22.9m)×梁行3間(11.5 m)の東西の楼閣で、柱堀方は3.5m ×2.5mの長方形、根入れ深さは2.7 mと超巨大です。

柱を抜き取る穴(抜き取り穴)は東西に 長く、その長さが6mを超えるものもあるこ とから、長大な柱が用いられていたと考 えられます。

一方、内部8本の柱は全て礎石建 ちで、築地回廊とつながっている床面 だったと考えられます。

復原される柱の産地

- よ②/奈良県吉野郡東吉野村 よ③/岐阜県不破郡関ケ原町
- よ③/三軍県松阪市飯高町
- よ② /和歌山県新宮市
- 為多/和歌山県田辺市 為④ /和歌山県田辺市 為③/奈良県五修市西吉野町
- よ列 か列 わ列 春列 各列 ぬ列

清水寺本堂 東楼外周柱 大極門初重柱 舞台懸造 長さ約12.1m ■水飲4.7m

さ/大極門: 約20.0m 東楼: 18.6m | 基壇の高さ/大極門: 106cm 東楼: 62cm

屋根形式/大極門: 入母屋造 東楼: 寄棟造 2階の床/大極門: なし

諏訪大社御柱/約17m、東大寺南大門通柱/約21m 大極殿の初重柱/約5.0m、 朱雀門の 初重柱/約5.3m

京都営繕事務所では、平城宮跡・東楼復原 工事の様子を定期的にお知らせする 「現場だより」を発行しています。 どうぞご覧ください。 (京都営繕事務所HP)

> 平城官跡 いちにされば。 (m) (m) (m) 4 mm

おすすめの散歩ルートの 紹介もしています。 (現場だより第13号より) BETS THEY, U. ++-ESITES THE THEE BETS THE PROBLEM OF THE PROBLEM O

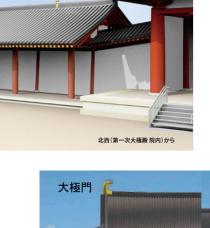
を⑥/和歌山県田辺市

を②/奈良県吉野郡東吉野村 か多/奈良県吉野郡川上村

か②/要知県北設楽郡東栄村 わ②/三重県北牟要郡紀北町

朱雀門

る③/三重県北牟婁郡紀北町 る②/和歌山県新宮市 わ③/奈良県吉野郡東吉野村



大極門と東楼